

特集

今、災害に備える

九月一日は「防災の日」です。台風や前線の影響で、大雨・台風による水害が発生しやすい時期です。近年は、ゲリラ豪雨と言われる突発的な豪雨も増えています。平常時に災害時のことを考え、対策をしておくことにより被害を最小限に抑えることができます。

今月号では、主に水害による災害時に身を守るための避難行動と、今年度新たに実施した防災チャレンジキャンプでの避難所体験についてお知らせします。

災害への備え

「自助」に取り組み

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら行う「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」、国や地方公共団体が行う「公助」がそれぞれの役割を果たし、連携することが重要です。特に、その中でも重要となるのが、自分を守る「自助」です。自分が助からなければ、人を助けることはできません。「自助」に取り組むためには、まず災害に備え、身の安全の守り方を知っておくことが重要です。自分を守る最も確実な方法が「逃げ

ること、すなわち「避難」です。

命を守るための避難行動

災害時の避難では、避難所へ移動（水平避難）することが一般的に考えられ

がちです。しかし、大型台風や集中豪雨時は、道路が冠水した中での屋外への移動はかえって危険な場合もあります。自宅内の高い所に移動（垂直避難）した方が安全な場合があります。避難所へ避難（水平避難）する場合は、早めに判断することが重要です。

避難勧告等の種類と求められる行動

危険性の度合に応じて「避難準備・高齢者避難開始」「避難勧告」「避難指示」の3種類の情報を町から発表します。それぞれのご自宅や自身の状況に応じて避難方法を判断してください。

危険度	区分	発令時の条件	住民に求められる行動
低	避難準備・高齢者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 人的被害の発生する可能性が高まった状態。 	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者等（避難行動に時間を要する方）は、計画された避難所への避難行動を開始してください。 上記以外の方は、家族等との連絡、非常用持出品の用意等の避難準備を開始するよう努めてください。
危険度	避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> 人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常の避難行動ができる方は、計画された避難所等へ避難を開始してください。 避難行動が困難と判断した場合は屋内で安全確保の行動をとってください。
高	避難指示（緊急）	<ul style="list-style-type: none"> 人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。 人的被害の発生した状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難勧告等の発令後で避難中の住民は、確実な避難行動を直ちに完了させてください。 まだ避難していない対象住民は、直ちに避難行動に移るとともに、その時間がない場合は生命を守る最低限の行動をとってください。

